

数学科シラバス 高校2年 文系数学Ⅱα

1. 学習の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(科目) 数学Ⅱα	2単位	第2学年 (文系)	「改訂版 高等学校 数学Ⅱ」 数研出版 「改訂版 クリアー 数学Ⅱ+B+C」 数研出版
学習の到達目標	対数関数，三角関数の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。		
評価の観点	<p><主体性・多様性・協働性> 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p> <p>-----</p> <p><思考力・判断力・表現力> 関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。</p> <p>-----</p> <p><知識・技能> 対数関数，三角関数の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p>		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

A：「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・100%

B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・80%

C：「努力を要する」状況と判断されるもの・・・60%

D：未提出，未実施・・・0%

2. 学習計画及び評価方法等

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
4 ・ 5 月	数学Ⅱ第4章 「三角関数」	角の概念を一般角まで拡張し、三角関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 一般角および弧度法について理解する。 弧度法で表された一般角に対する三角関数の定義を理解し、さまざまな問題を通してその扱いに習熟する。
6 ・ 7 月	数学Ⅱ第4章 「三角関数」	三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 加法定理やそこから派生するさまざまな公式について理解し、問題演習を通してその扱いに習熟する。
9 ・ 10 月	数学Ⅱ第5章 「対数関数」	<ul style="list-style-type: none"> 対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 対数の定義を理解し、その演算方法に習熟する。 対数関数の性質を理解し、方程式や不等式の解法に習熟する。
11 ・ 12 月	数学Ⅱ第5章 「対数関数」	<ul style="list-style-type: none"> 対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 大学入学共通テスト対策を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 常用対数を理解し、桁数や小数首位問題を通してその有用性に気付く。 大学入学共通テスト形式の問題演習を通して実戦力を養う。
1 ・ 2 月	数学Ⅰ 「数と式」 「論理と集合」 「2次関数」など	数学Ⅰの既習分野の復習を行うと同時に、大学入学共通テスト対策を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 数と式、論理と集合、2次関数について、その内容の復習を行う。 大学入学共通テスト形式の問題演習を通して実戦力を養う。

評価の観点及び内容	評価方法(具体例)
<関心・意欲・態度> 授業および宿題にきちんと取り組んだか。	授業課題・宿題提出(10%)
<思考・判断・表現> 教科書・傍用問題集の応用問題(B問題)が解けるようになったか。	定期考査(45%)
<知識・理解> 教科書・傍用問題集の基本問題(A問題)が解けるようになったか。	定期考査(45%)